


熱田神社の説明資料	
説明項目	説明内容
	この近くからは縄文時代の土器が発掘されるので、古くから集落はここにはあった。
熱田社の始まり	
言伝えでの創建時期	日本武尊の時代(西暦72年~113年)
	日本武尊(ヤマトタケル)が戸台の河原(大量の血で染まったので赤河原と呼ぶ)にて、この地方の災いの大蛇を退治し、この地に葬って小さな祠を作ったのが始まりと信じている。
形影	その後、尾張国の熱田神社の形影をお迎えし、産土神として祀った。尾張国熱田神社の3箇所より境内につながる道がある三方三ツ辻の配置(鳥居が3箇所にある)とした。
	その後、神明宮、八剣大明神を合祀する。
産土神(ウブスガミ)	生まれた土地を領有、守護する神で氏神様とは別と考えられる。
神明宮(シメイグウ)	伊勢信仰、天照皇大神など伊勢内宮・外宮を分霊した神
八剣大明神(ヤツルギダイミョウジン)	日本武尊の祭祀する剣系の神
確認出来る一番古い時期	南北朝(今より約680年)の時代
	南北朝の時代(1336年~1392年)南朝(吉野朝)従えた藤原成文卿「信濃のなる伊那てふ里の片辺にもめぐみあったの神の御柱」の歌より熱田社はこの時期には建立祀られていたことがわかる。
現在の熱田社本殿 大工棟梁	宝暦9年~13年(1759年~1763)の5年間で大改修 池上善八(本姓高見)
彫物師	溝口村 宮の久保生まれで、武蔵国妻沼村(埼玉県妻沼町)の宮大工林兵庫正清のもとで修行する。 関口文治郎有信とその弟子5人
色付け師(粉飾師)	池上善八は上州当時知り合いとなった関口文治郎に彫刻を依頼した。関口文治郎は東上州花輪在上田沢村(群馬県勢田郡黒保根村)生まれで、上州の左甚五郎とも言われた。 森田清吉
建築費・建築材料	武州久保村出身 現代の貨幣価値で推定5億円
寄付者	神社に係る資料によれば、村人147人の寄付だけによる。 この頃は三峰川の大水害や、はやり病で村人は大変苦しい時代であった、村人の熱田神社に寄せる厚い信仰心に頭が下がる。
建築材 ご神木と高麗神社(効カガシヤ)	境内で1番大きなご神木のケヤキ1本でまかなう。 この倒した樺の空洞から大蛇の骨が現れ大蛇伝説を信じている村人が、このご神木の根元に小さな祠を奉り蛇骨様(シヨツサマ)と呼んで無事の完成を願った。
	
	本殿北側の高麗神社
彩色材料 建築の記録	鉱石などを砕いた絵具(岩絵具)を接着材のニカワと混ぜて塗る 昭和5年、宗良親王の石碑と思われるものが発見されたので、目ぼしい家の古文書を調べている時、中山晶計氏宅に保存されていることが判った、詳細にわたって3冊に記録されている。

説明項目	説明内容
本殿建築	
規模	間口10尺6寸(約3.3m)、奥行9尺6寸(約2.9m)の総檜造り。
建築様式 三間社造り	1棟の中に神殿が3つ並んでいる、正面の柱が4本有り3間にわかれている。
	 <p data-bbox="638 560 766 593">本殿正面</p> <p data-bbox="1069 560 1165 593">参考図</p>
入母屋造り	屋根は上部は切妻(長辺からみて前後2方向に勾配)、下部は寄棟(前後左右に勾配)造り。
唐破風造り 兎の毛通し	屋根の形式で中央部が弓形で左右反り返った曲線状の造りを云う 屋根の切妻にある三角形の合掌部部分
	 <p data-bbox="606 761 750 795">写真入れる</p> <p data-bbox="1308 851 1388 884">寄棟</p>
珍しい特徴	合掌部分にある懸魚(ケギョ) 普通は正面が唐破風の裝飾構造のみであるが、側面も唐破風の裝飾がある
	
覆屋	覆屋も本殿完成後たたちに造られたとおもわれる。
	
境内の建物	舞宮は拝殿の前に建っていたが昭和11年に移築された 養蚕の神様(こだま様)を祀った 蠶魂神社
	